

地域主体のまち学習における防災教育プログラム開発 Developmet of Learning Program of Disaster Prevention Streetwork by Community

○岡西 靖¹, 藤岡泰寛¹, 三輪律江², 稲垣景子¹, 佐土原聡¹
Yasushi OKANISHI¹, Yasuhiro FUJIOKA¹, Norie MIWA², Keiko INAGAKI¹
and Satoru SADOHARA¹

¹横浜国立大学

Yokohama National University

²横浜市立大学

Yokohama City University

In Wada-machi in Hodogaya ward, Yokohama City, Action programs of streetwork by children is continued for 8 years by Local resident and Yokohama National University. Also local disaster prevention is continued by neighborhood association in Wada-machi. This research puts in order the effects and the subjects about those activities from the angle of the local disaster prevention measure. The purpose of this research is consideration to learning program of local disaster prevention though generalization of the activities whole for 8 years

Keywords : Local Disaster Prevention, Learning Program of Disaster Prevention, Community

1. 研究の目的

横浜市保土ヶ谷区和田町地域では、横浜国立大学と協働し、様々なまちづくり活動を展開している。その中でも、地域と子供プロジェクトは過去8年間にわたり、「子どもまち探検」企画を継続して実施している。この企画は、子どもの「まち」（＝地元の和田町地域）への「なじみ」を形成し、子どもと地域の関係づくりを目指したものである。

本研究は、「子どもまち探検」企画における子どもの地域学習課題のひとつとして「防災」を位置づけたことと、「子どもまち探検」の企画・運営の主体の一つである和田西部町内会における地域防災の取り組みと「子どもまち探検」との連動した動きについて、それらの効果と課題を地域防災対策の観点から整理を行う。これまでにも年度単位での個別の活動については報告してきたが、「子どもまち探検」企画の節目となった8年間の活動全体を振り返り、総括することにより、地域防災における防災教育プログラムの在り方についての展望を検討することを目的とする。

2. これまでの「子どもまち探検」の活動

(1) これまでの経緯

2001年度の和田町商店街、区と大学との共同研究を契機に、横浜市保土ヶ谷区和田町では大学と協働したまちづくりに取り組み、その後「和田町タウンマネジメント協議会」を設立し、まちづくりや商店街の活性化などを進めており、その中の一つとして、子どもまち探検企画を実施している。

子どもまち探検ワークショップは、2003年にスタートし、探検における学習課題として、4年で一サイクルとして「歴史、環境、防災、福祉」の4テーマを設定した。これまでの取り組みの流れを図1に示す。

(2) 「子どもまち探検」における「防災」学習

これまで8年間の「子どもまち探検」において、学習

課題として防災を2度取り上げている。（なお、本報では防犯関連の内容も地域の安全・安心につながることで、広義に防災に役立つとして取り上げている）

①2005年度の取り組み

最初に取り上げた2005年度の第3回では、主に地域の防災・防犯資源の点検活動を実施した。その結果、（防災ではないが）「こども110番あんしんの家」（以下、あんしんの家とする）に登録している世帯が地域内でかなりの偏在していることを明らかにした。その結果を受けて、あんしんを家の登録促進に地元町内会や地元商店街が取り組みを始めた。地元商店街では、加盟商店の「あんしんの家」への登録数が5件から35件に増加する（2005.11.27現在）とともに、独自に「あんしんの店」を表すプレートを作成して店頭に掲示した。これらの取り組みを広く地域にアピールするために「わだまち安全・安心の街宣言」記念イベントを開催した（2005.11.27）。一方、地元町内会では、「あんしんの家」への登録促進を行い、18軒の新規登録が行われた（2006.2.28現在）。また「子どもまち探検」では、探検の結果を必ず地図上にまとめ、壁新聞風に仕上げ、地域住民の方に見ていただく機会を設けているが、その探検結果が、地域の公園再生の取り組みに役立った。

②2009,2010年度の取り組み

次に取り上げたのは、2009、2010年度の2年度で、テーマを「防災・福祉」という複合的なテーマとして実施した。この2年間では、地元町内会の防災対策の動きと連動した取り組みとして実施し、一時避難場所の選定や災害時要援護者対策を柱に据えて実施した。子どもまち探検としては、2009年度は仮の一時避難場所を設定して、地域住民の協力を得て、安否確認と一時避難場所までの避難行動の介助を実施した。2010年度は、地元町内会で災害時要援護者名簿の作成と一時避難場所の選定が終了していたことから、要援護者の一時避難場所への避難行動の介助を再び実施したことに加え、一時避難場所の点

検や要援護者へのインタビューなども実施することで、より実践的な学習とした。

3. 防災に関する地域の取り組み

地域における防災の取り組みとしては、「子どもまち探検」企画開始前から町内会の防犯・防災部が備蓄品の整備など進めていた。

(1) 2005年度の公園再生の取り組み

「子どもまち探検」が2005年度に防災をテーマとして取り上げたこととの連動としては、地域の公園再生を進めた。自動車専用道路の高架下にある公園は、高架の支柱に落書きされることが多く、暗くて治安の悪いイメージがあったため、支柱に地域の自然や歴史資源をテーマとしたさまざまな絵を描くことで落書きを消し、地域住民が親しめる公園に再生した。その絵の中の何枚かを「子どもまち探検」で調査した結果を地域の防災マップとして描いた。この公園再生活動は町内会を中心に、小学校、子供会、老人会などさまざまな団体が参加して進められ、その後もほぼ落書きされることがなく、今日に至っている。

(2) 2009, 2010年度の地域防災の体制構築

地元町内会の2009, 2010年度の地域防災に関する取り組みとしては、災害時要援護者対策を中心に据え、一時避難場所の選定し、その後、手上げ方式による要援護者台帳の作成を実施した。地域の動きとの連動で「子どもまち探検」企画をとらえると、2009年度は地域の取り組みの事前検証、2010年度は取り組みの事後検証と一連の取り組みの地域住民への広報という意味合いがあった。

また、これらの地域防災の体制構築においては横浜国大佐土原研究室が、一時避難場所の選定においてGISによる斜面地形を表現した地図利用のワークショップを、要援護者の援護体制検討において町内会向けの机上訓練をそれぞれ実施し、これらの成果も一部は子どもまち探検の企画に反映されている。

4. これまでの活動の効果と課題

一連の取り組みの効果としては、以下のとおりである。

- 「子どもまち探検」の結果は子どもの視点・活動から地域の課題発信という意味合いもあり、大人が真摯に受け止めやすく、その後の地域の防災活動に展開させた。
- イベントと地域の防災活動を連携をさせることで、活動の継続性が担保され、地域への波及効果があった。
- 8年間の継続による地域と大学の信頼関係の構築によって、地域の防災活動と大学の研究との協働が可能となった。

課題としては以下のようなことが挙げられる。

- 地域の防災活動は子どもまち探検などと連動しているが、全体の枠組みがなく、個別対応にとどまっている。
- 子どもの参加者がテーマによって増減し、防災や福祉に関してはやや低調であった。
- 毎年、年間を通じた企画の立案が困難である。

5. まとめ（防災学習プログラムの開発にむけて）

課題でも述べたが、これまで子どもまち探検と連動する形で、地域において防災活動を展開してきたが、個々の取り組みは成功しているが、地域防災全体を俯瞰してみた場合には、部分的な取り組みになってしまっている。

その問題を解消するには、防災学習プログラムとして全体の枠組みを設定することが必要となってくる。

阪神・淡路大震災以降、地域の防災対策が進められてきているが、防災全体における地域の役割やそれを実現するために地域に求められる能力・技術の内容などが十分に明確になっておらず、目標設定が重要であると考えられる。またそれらを実際に取り組みする場合において、具体的な技能習得や学習過程とそれらを検証するための訓練などの全体的なプログラムの提供が必要とされる。

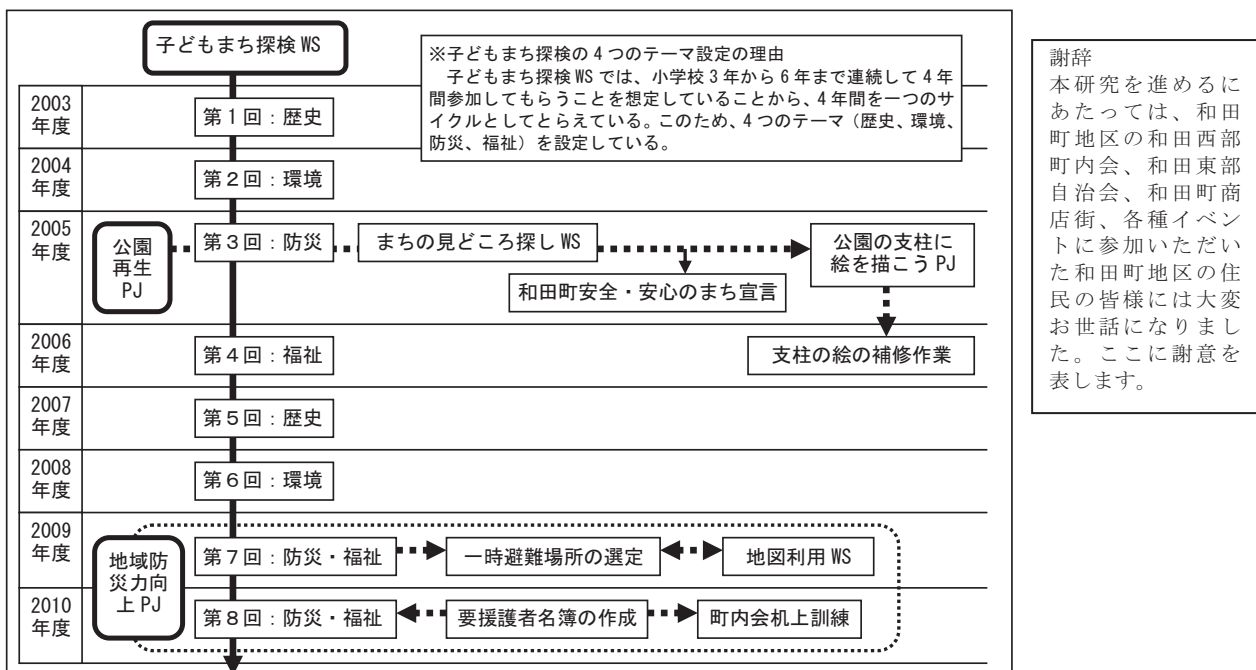


図1 これまでの地域における活動の流れ